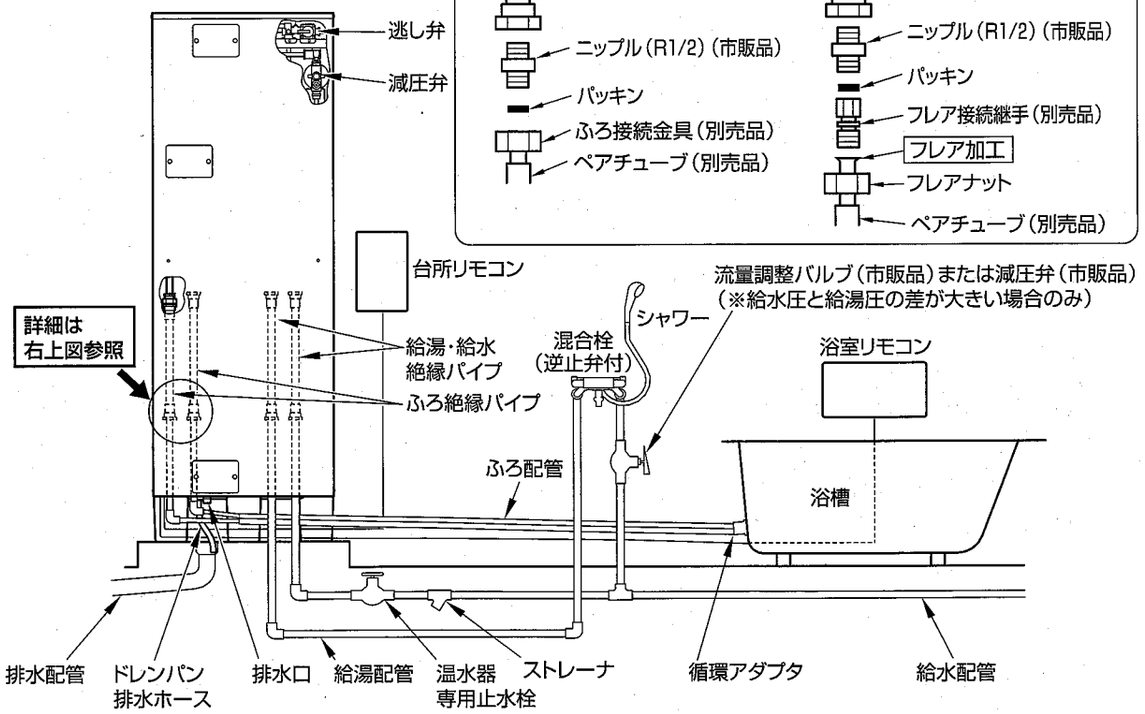
配　管　工　事

- 配管工事は、必ず当該水道局（水道事業管理者）の認定水道事業者が行ってください。
- 当社指定の別売品を使用してください。指定部品を使用せずに事故、故障が生じた場合は責任を負いかねます。

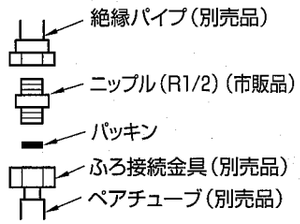
- 温水器回りの配管部品は、保守・点検がしやすいように取付けてください。
- 給水管は合成樹脂内面処理鋼管又は銅管を、給湯管は銅管又はステンレス管を使用してください。
  また、排水管系は耐熱性のある材料を使用してください。なお、所轄の水道局で配管材料が指定されている場合はそれにしたがってください。
- 配管材料をロー付けした場合は、ロー付け箇所のフラックスを濡れた布などできれいに拭き取ってください。
- 配管材料はねじ切り・切断などの際、油やゴミが付着するので加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから配管してください。
- 混合栓には、必ず逆止弁付混合栓を使用してください。また、安全性、温度安定性に優れた当社サーモスタット式との接続をおすすめします。
  シングルレバー式や2バルブ式と接続される場合は、給水圧と給湯圧の差が大きい場合は使い勝手が悪くなりますので給水元圧を減圧する、混合栓の湯側のブッシュを外す、混合栓への給水量を止水栓で絞るなどして、給水量と給湯量を調整してください。

【注意】
・部品交換などの保守点検を容易にするため、給水側には必ずユニオン継手を使用してください。
・排水口と排水溝（排水ホッパー）の間を50㎜以上、空間を開けてください。
・排水溝（排水ホッパー）は口径80㎜以上のものを使用してください。
・逃し弁ホース、減圧弁ホースの先端は排水溝（排水ホッパー）の中に入れないでください。
・絶縁配管接続時は取付金具などの変形や位置ずれを防止するため配管や継手を工具で固定して締め付けてください。

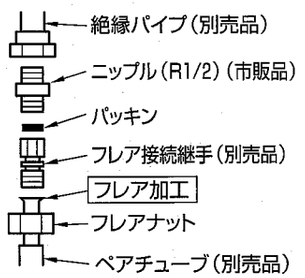


ふろ絶縁パイプとペアチューブの接続

〈ふろ接続金具の場合〉



〈フレア接続継手の場合〉



給水・給湯・ふろ配管

- 前面パネルを外して配管工事を行ってください。
- 絶縁パイプは、万一の感電を防止するものです。必ず接続してください。

※絶縁パイプは、TOTO別売品をご使用ください。なお、当該水道局で材質が指定されている場合はそれにしたがってください。

- 給水配管には、必ず温水器専用の止水栓およびストレーナを取付けてください。
  （水漏れや故障のときなど給水を止めるために必要です。）
- ふろ配管の延長は15m10曲がりまでです。ふろ配管にはTOTO別売品（ペアチューブ:RHG274-10（10m）、-25（25m）、-50（50m））を準備しています。

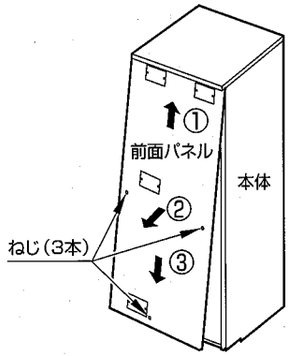
※ペアチューブと絶縁パイプを接続する場合は、接続方法によって別途部材が必要になります。（左ページ下参照）

【前面パネルの外し方・取付け方】

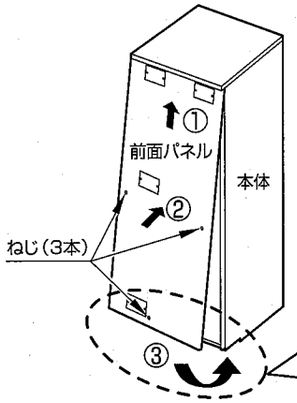
＜外し方＞
1. ねじを外します。（3本）
2. ①のように引き上げます。
3. ②のように手前に引きます。
4. ③のように引き下げると前面パネルが外れます。

＜取付け方＞
1. 前面パネル上部を天板の内側に差し込み、上に引き上げます。（①）
2. 前面パネルを本体にピッタリと合わせて、そのまま下へ引き下げます。（②）
3. 前面パネル下部のフックを本体底板の引っかけ部に確実に引っかけたのちねじ（3本）で固定してください。（③）

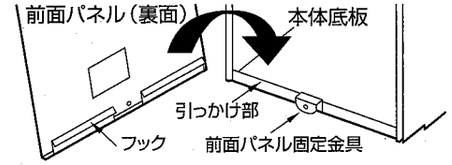
＜外し方＞



＜取付け方＞

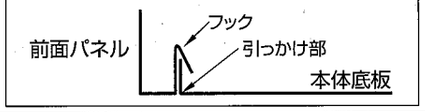


⚠注意



前面パネルのフックを本体底板の引っかけ部に確実に引っかけてください。

【フック・引っかけ部詳細】

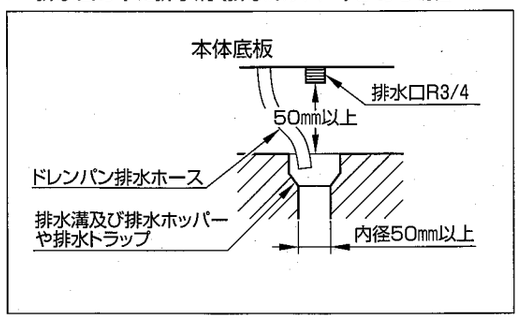


前面パネル下部のフックが確実に引っかかっていることを確認してください。フックが確実に引っかかっていないと、本体下部のねじが固定できません。

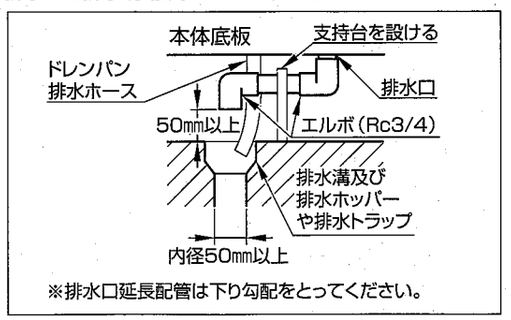
排　水

- 排水配管は、内径50㎜以上で配管勾配をとってください。
- わき上げ中に排水口より膨張水がでますので、必ず排水工事をしてください。
- 排水時に高温水が排水される場合があるので、耐熱性のある配管を使用してください。
- 排水口延長配管にフレキシブル管は使用しないでください。また、排水口延長配管は口径20A（3/4インチ）以上確保してください。

排水口の下に排水溝（排水ホッパー）がある場合



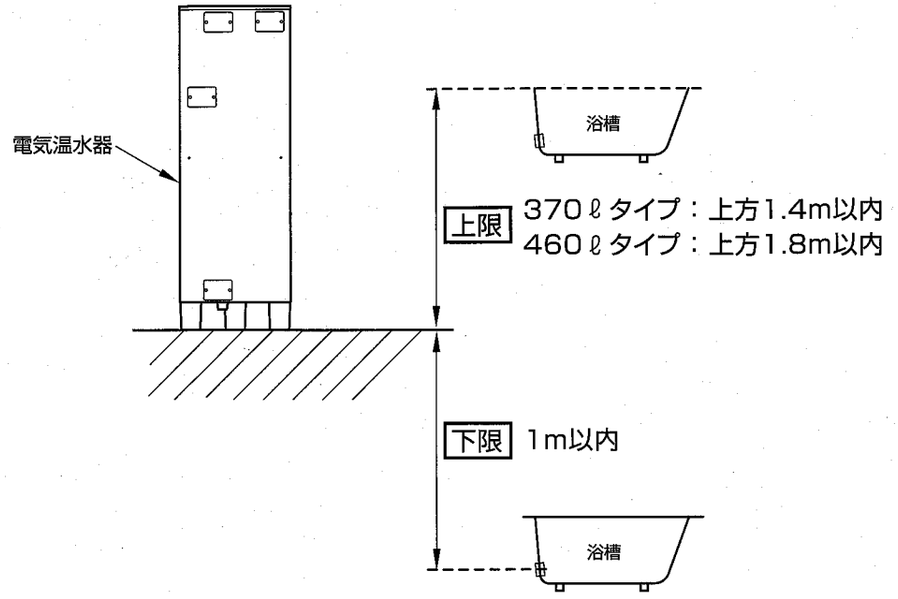
排水口と排水溝（排水ホッパー）の位置がずれている場合



※排水口延長配管は下り勾配をとってください。

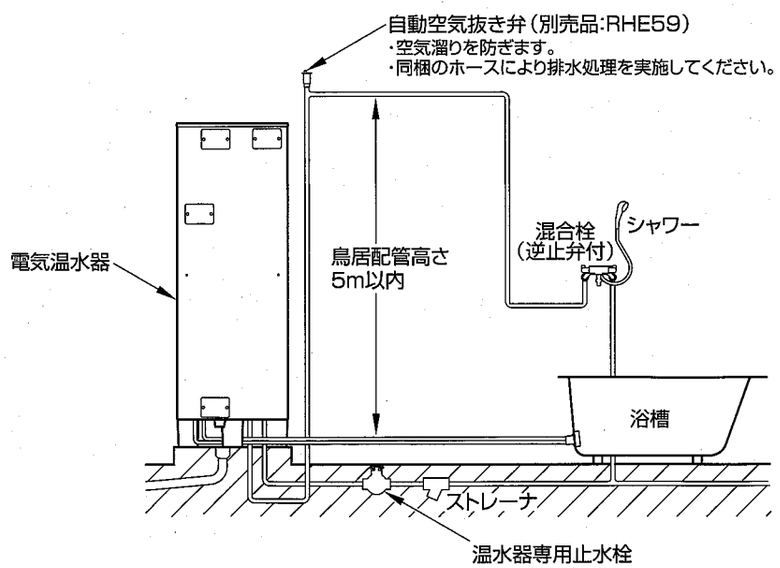
浴槽設置位置

- 温水器設置面より浴槽あふれ縁までの高さは、
  370ℓタイプ：上方1.4m以内
  460ℓタイプ：上方1.8m以内
  としてください。
- 温水器設置面より循環アダプタまでの高さは、下方1m以内としてください。
  （370ℓタイプ、460ℓタイプ共通）



鳥居配管の場合

- 給湯配管をやむを得ず鳥居配管にした場合は空気混入によるお湯の飛び散りを防ぐため必要に応じて自動空気抜き弁（別売品:RHE59）を取付けてください。



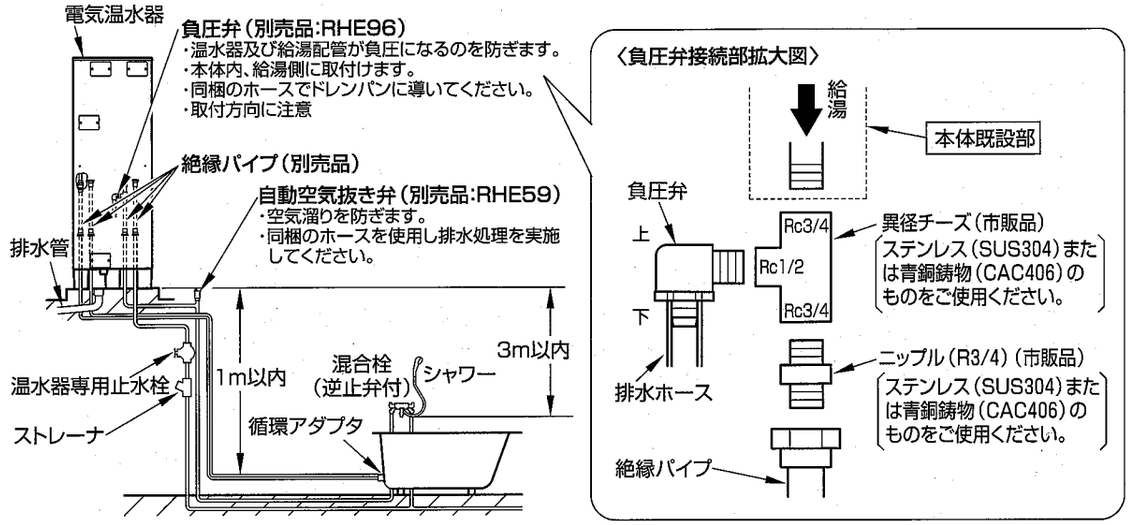
特殊配管例

〔階下へ給湯する場合〕

○温水器を2階又は屋上に設置し、階下へ給湯する場合は必ず別売品の自動空気抜き弁（RHE59）及び負圧弁（RHE96）をご使用ください。
自動空気抜き弁及び負圧弁に同梱のホースを使用し排水処理を実施してください。
負圧弁（RHE96）を取付るには、異径チーズ（市販品）とニップル（市販品）が必要です。（下図参照）

○混合栓と温水器の高低差は、3m以内にしてください。3mを超えると空気の混入によりお湯が飛び散るおそれがあります。

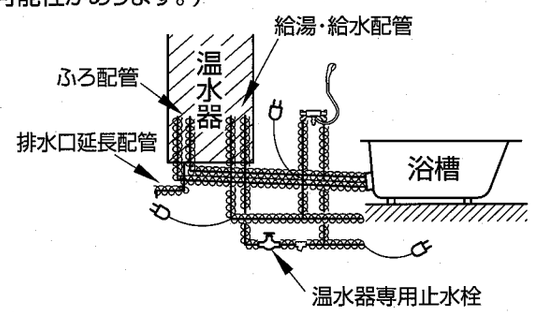
○浴槽の循環アダプタから温水器の高低差は、1m以内にしてください。



凍結予防対策

保温工事を行っていても周囲の温度が0℃以下になる配管は、適切な凍結予防対策を実施してください。（配管が凍結し機器や配管が破損する可能性があります。）

〈凍結予防ヒータによる方法〉



- 本体内部・外部配管とも凍結のおそれのある配管部分はすべて凍結予防ヒータを巻いてください。（本体内部の給水・給湯・ふろ接続口まで確実に巻いてください。）
- 排水配管を延長した場合は排水口延長配管にも凍結予防ヒータを巻いてください。（8ページ参照）
- 凍結予防ヒータは何本も使用するので適当な位置にコンセントを設けてください。
- 凍結予防ヒータを巻く場合はヒータの「説明書」による施工を行ってください。

※凍結予防対策とその操作方法をお客様に十分に説明してください。（取扱説明書を参照ください。）
※配管に水がない状態で凍結予防ヒータを絶対に通電させないでください。
※屋外にコンセントを設ける場合、防雨型のコンセントにしてください。

保温工事

- 配管接続の終了後漏水のないことを確認し、保温工事をしてください。
- 湯温の低下と凍結予防のため、すべての配管には必ず保温材を巻いてください。
- 地中配管や屋外など雨露のかかる保温箇所には適切な防水処理をしてください。